

地域福祉活動専門員

1 年間のあゆみ

～ 目標及び評価指標等について～

平成 29 年 2 月

尼崎市社会福祉協議会

目 次

<u>地域福祉活動専門員の目指す姿について</u>	・ ・ ・ ・ 1
1 地域福祉活動専門員の役割	・ ・ ・ ・ 1
2 地域（住民）との関わり	・ ・ ・ ・ 4
（1）連協・単協	・ ・ ・ ・ 4
（2）民生児童委員	・ ・ ・ ・ 6
（3）多様な主体	・ ・ ・ ・ 7
（4）ニーズを抱える住民	・ ・ ・ ・ 9
3 専門機関（専門職）との関わり	・ ・ ・ 11
4 行政との関わり	・ ・ ・ 12
5 コミュニティソーシャルワーカーとしてのスキル	・ ・ ・ 13
<u>年度ごとの取組みについて</u>	・ ・ ・ 15
<u>評価指標について</u>	・ ・ ・ 16
指標 1 専門員の認知・関係づくりが進んでいるか	・ ・ ・ 16
指標 2 専門員による地域等の活動の把握が進んでいるか	・ ・ ・ 19
指標 3 専門員の働きかけにより小地域福祉活動の推進が図られているか	・ ・ 23
指標 4 個別課題の地域課題化が進んでいるか	・ ・ ・ 26
指標 5 個別課題を解決するためのネットワークの構築が進んでいるか	・ ・ 29
<u>地域福祉活動専門員による働きかけとその成果等</u>	・ ・ ・ 32
成果	・ ・ ・ 32
成果	・ ・ ・ 34
成果	・ ・ ・ 37
成果	・ ・ ・ 39
成果	・ ・ ・ 40
成果	・ ・ ・ 42
成果	・ ・ ・ 43
成果	・ ・ ・ 45
成果	・ ・ ・ 47

地域福祉活動専門員の目指す姿について

1 地域福祉活動専門員の役割

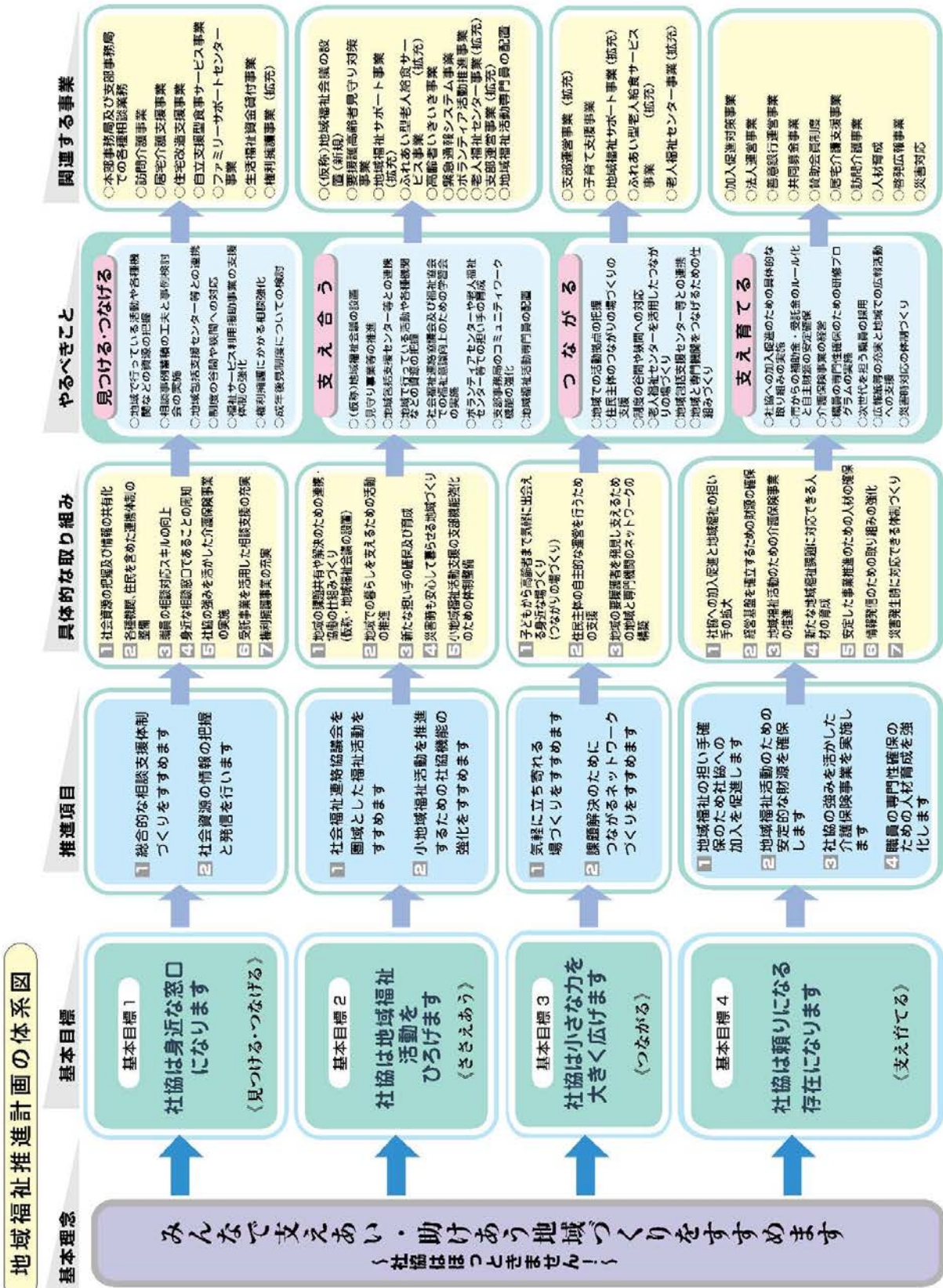
地域福祉活動専門員（以下、「専門員」という。）は、コミュニティワーク機能を高めながら制度の狭間のニーズにも対応していくため、地域住民の福祉意識の醸成に努めるほか、小地域福祉活動の支援を通じて、地域のキーパーソンの育成や新たな担い手の発掘・育成を進める。また、調査を通じた実態把握や多様な主体との協働により、地域の中で福祉情報や問題意識を共有できる場及び問題解決に向けた活動の場の組織化やそれらの活性化に向けて取組を進めていく。

また、併せて、専門員の存在と役割が地域や関係機関に認知されるとともに、地域の歴史や特性についての認識・理解を深め、社会資源や人材などを把握し関係づくりを進めることで、専門員活動が行いやすい基盤づくりを進める。

さらに、これまでの結びつきの強弱に関わらず、垣根のない、問題意識を共有できる、地域住民や専門機関等の力を結集したネットワークづくりを進め、制度の狭間の課題を抱える要援護者などの幅広い対象者への個別支援が継続的に実施できるよう尼崎市におけるコミュニティソーシャルワーク機能を充実、強化していくとともに、それを発展させるために尼崎市社会福祉協議会としてのコミュニティソーシャルワーク機能も高めていく。

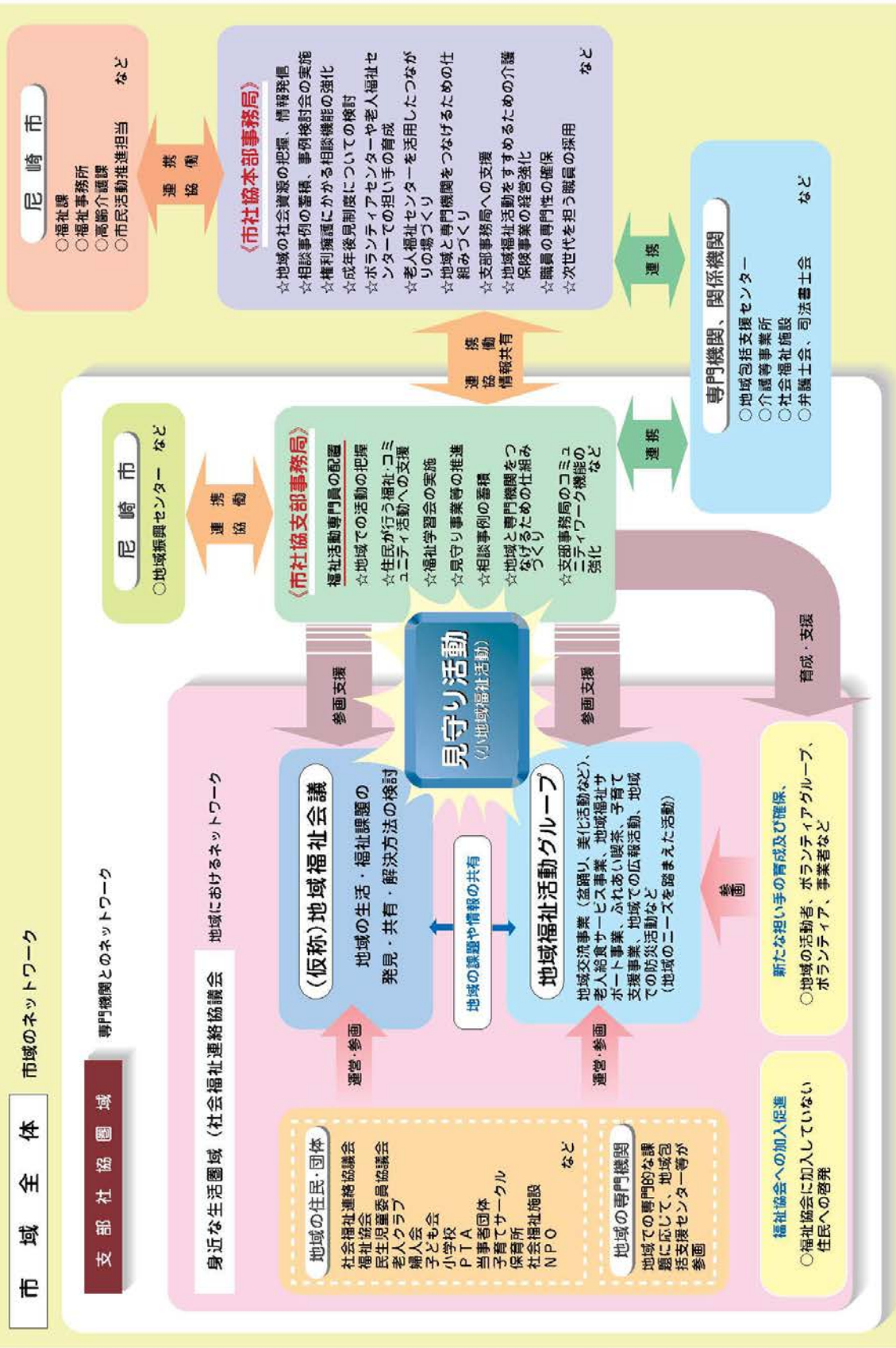
※尼崎市社協では、専門員活動を中心として、専門員及び社協支部事務局のコミュニティソーシャルワーク機能を高めていくことを目指している。

尼崎市社協第3期地域福祉推進計画より ①



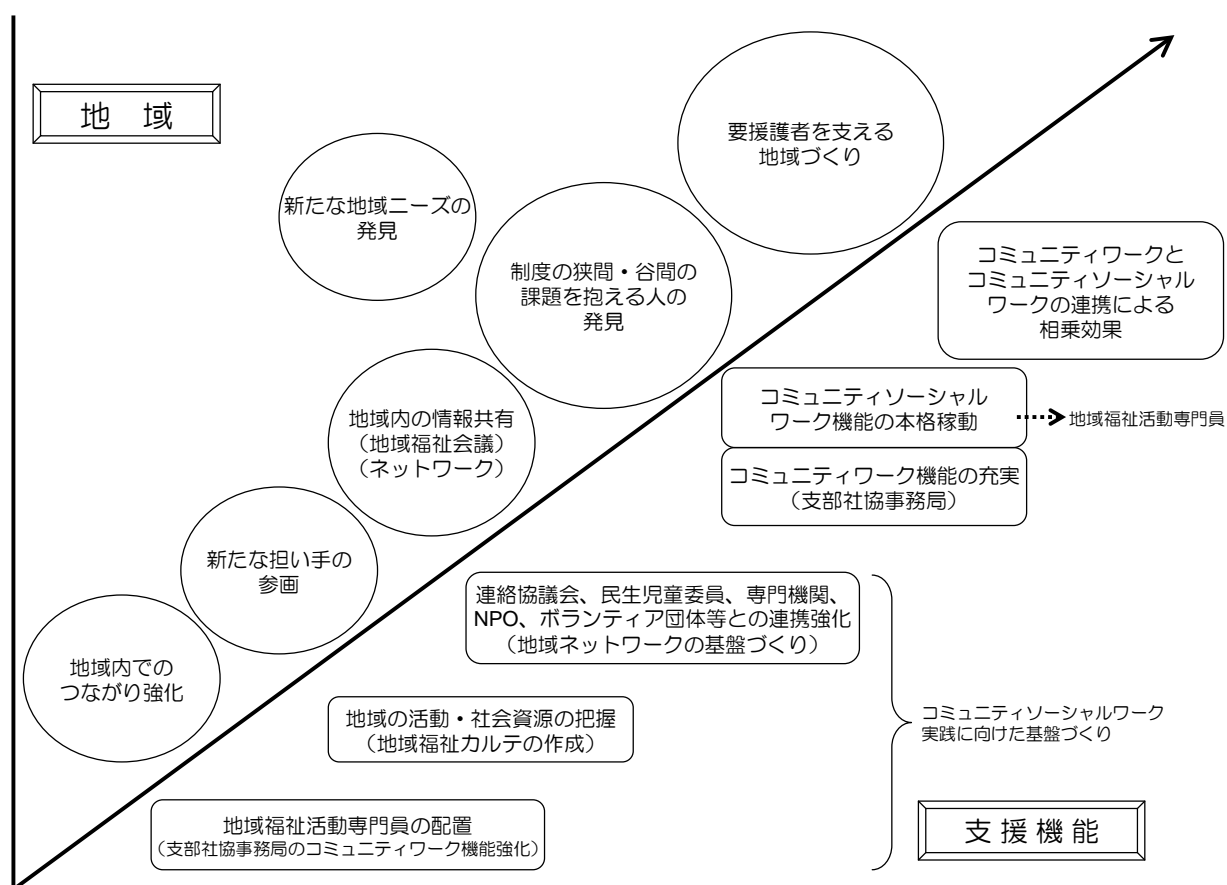
尼崎市社協第3期地域福祉推進計画より ②

(図16) 地域福祉をすすめるネットワークと事業展開のイメージ



※「第2期あまがさき地域福祉計画」P.77～P.78 | 地域福祉の推進とネットワークの構築(イメージ)から社会福祉協議会の役割を具体化

(コミュニティソーシャルワーク機能を高めるための取組み)



2 地域（住民）との関わり

(1) 連協・単協との関わり

○専門員の認知・関係づくり

小地域福祉活動などの活動現場への訪問などを通して、地域のリーダーや担い手などに“専門員”という存在を認識してもらうとともに、福祉に関する相談を持ちかけてもらえる信頼関係を構築することで、〈住民と専門員とのネットワーク〉づくりを進める。

○地域福祉活動状況の把握

地域の歴史や特性を知るとともに、地域における社会資源として地域福祉活動の把握を進める。また、これらを通じて、活動のリーダーや活動者などの人材の状況についても把握に努め、信頼関係を構築する。

○新たな担い手の育成

小地域福祉活動の推進や住民への福祉意識の啓発などを通して、連協・単協に関わる役員が福祉意識を持って活動してもらえるよう人材育成を行うとともに、住民が新たな担い手として参加でき、活動のリーダーが生まれるよう、発掘及び育成を進める。

○地域のニーズ（活動者側と当事者側）の把握

活動を行う際に障壁となっている事柄を把握し、それらの解消に向けたコーディネートを行うことで、活動しやすい環境づくりを支援するとともに、活動者や当事者が感じている新たなニーズを把握し、活動の拡充や新たな活動の実施を支援するなどして、小地域福祉活動の活性化を図る。また、地域ごとに要援護者などの当事者が抱える課題を把握し、専門機関などにつなげることや、当事者の組織化などについても支援する。

○見守り活動を核とした福祉組織化の支援

高齢者等見守り活動を核として、福祉協会などのより身近な圏域で福祉的に機能する活動グループを組織化し、小地域福祉活動の活性化を図るとともに、見守り安心委員会や地域福祉会議などのネットワーク化を通して、地域に住む全ての住民が対象者となるような福祉組織化を支援していく。

○地域内ネットワークの構築

福祉的ニーズが拾える地域づくりの支援を行い、〈住民間のネットワーク〉で福祉的ニーズが共有され、解決するネットワークづくりを支援する。

また、地域課題が発生したときに地域のリーダーや関係団体をつなげ、問題解決へと導くことができる〈住民と専門機関のつなぐ〉ネットワークを構築する。

○従来の地域内ネットワークに属さない活動を把握する

制度改正を経て新たに生まれてきた住民間のネットワークや住民と専門職間のネットワークなど、様々な社会資源を把握する。

○単協単位への啓発活動を行う

連協圏域で行ってきた啓発活動を、より身近な地域で考えてもらうために単協圏域に対しても並行して行う。

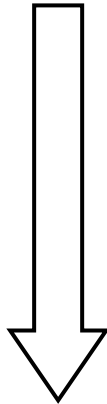
○社会資源の見える化の検討をする

他の専門職と一層の連携を促すために、専門員および支部が把握してきた社会資源を情報共有し、他職種と共同して見える化を行う。

○引き続き単協単位への啓発活動を行う

複雑化している福祉課題や制度背景を踏まえ、住民の理解を得るために、よりきめ細やかな啓発を行い、住民の福祉意識の醸成を促す。

【取組みの段階】

取組み項目	段階	年度
○専門員の認知・関係づくり		H24～
○地域福祉活動状況の把握		H24～
○新たな担い手の育成		H25～
○地域のニーズの把握		H25～
○地域内ネットワークの構築		H26～
○従来の地域内ネットワークに属さない活動を把握する		H27～
○単協単位への啓発活動を行う		H27～
○社会資源の見える化の検討をする		H28～
○引き続き単協単位への啓発活動を行う		H28～

(2) 民生児童委員との関わり

○専門員の認知・関係づくり

専門員が、地区民生児童委員協議会の理事会等の会議に参加し、民生児童委員の方々に専門員の役割や存在を認識してもらう。また、互いに地域で抱えている問題などを相談、情報提供・共有が出来る信頼関係を構築する。

○民生児童委員活動の把握

民生児童委員が、普段地域で関わっている地域活動の場所へ出向き、民生児童委員活動の把握を努める。また、活動場所へ出向くことで民生協力員や他の活動者の人材情報を収集し、あわせて専門員の役割や存在について周知する。

○互いの役割理解に基づく協力体制の構築

民生児童委員と専門員が、互いの役割を理解することで地域課題の解決へ向けて、協力体制を構築していく。

専門員は、民生児童委員が地域活動から得られた個別課題やニーズを拾い上げ、解決するために様々な関係機関との橋渡しを行う。また、他の社会資源につなげていけるよう社会資源の情報を提供する。

○民生児童委員活動から見えた個別課題を地域課題として捉える

民生児童委員と専門員の両者が連携し、地域活動から得た個別課題を地域課題としてとらえ、問題解決に導いていけるよう小地域福祉活動の中心となる社会福祉連絡協議会や福祉協会へ働きかける。また、様々な団体や活動者を巻き込むことで、問題解決へ向けてのネットワークを広げていく。

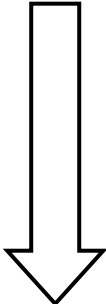
○さらに信頼関係を構築し、協力体制を強固にする

民生児童委員と専門員が、互いの役割を理解し関係性を深め、地域課題の解決へ向けた協力体制を強固にする。

○より細やかな支援が必要な相談や地域支援に関する相談を共に検討する

民生児童委員活動の中で知りえた個別課題を抱えた方への対応を共に検討する中で、地域課題として捉え、集い場等の立ち上げ支援、既存集い場等の情報提供や誘導など、地域への働きかけを行う。

【取組みの段階】

取組み項目	段階	年度
○専門員の認知・関係づくり		H24～
○民生児童委員活動の把握		H25～
○互いの役割理解に基づく協力体制の構築		H26～
○民生児童委員活動から見えた個別課題を地域課題として捉える		H26～
○さらに信頼関係を構築し、協力体制を強固にする		H27～
○より細やかな支援が必要な相談や地域支援に関する相談を共に検討する		H28～

(3)多様な主体との関わり

○専門員の認知・関係づくり

地域の社会資源・地域活動状況や地域福祉ニーズ等の把握のため、地域活動中、地域内の老人会や子ども会、NPOや連協・単協・民生児童委員以外の多種多様な団体・組織に専門員という存在を認識してもらうとともに、共通課題の取り組みが発生した際、共通認識と理解のもと信頼関係を構築しながら、協力・連携ができるネットワークづくりを進める。

○福祉ニーズの把握

地域活動中に、課題解決すべき問題を発見したり、地域や関係機関から相談を受けることにより、福祉ニーズを把握する。

○ネットワークの構築（地域への参画の促進）

福祉協会などの地縁型やNPOなどのテーマ型の組織、また、当事者組織などが協働できるネットワークを形成し、これらの多様な主体とニーズを共有するとともに、ニーズの解決に向けた支援が行えるようその協働促進（ネットワーク化）を図る。

○個別課題を地域課題として捉える（地域福祉会議を軸にした連携・協働体制づくり）

地域で生活し、活動する多様な主体が集い、各々が受け止めた様々なニーズの共有を図ることで、より広範な視点のニーズが集まることを促進していく。また、持ち寄られたニーズについて、当事者個人の課題として留めることなく、地域全体として考えていくべきニーズを浮き上がらせていくため、住民や民生児童委員、その他の活動主体などの参画を得た住民主体の地域福祉会議の組織化を進める。

これらの地域福祉会議での身近なニーズの共有等を通して、地域に埋もれたニーズを、住民を中心としたネットワークの力で顕在化していくための基盤づくりを進めていく。

○地域課題に対応する具体的な活動を支援する

地域住民や専門機関・専門職から情報のあった個別課題から表れる地域課題を解決するために地域住民が活動する中で、情報提供や他団体や組織、関係者とのネットワーク構築のサポート等を行う。

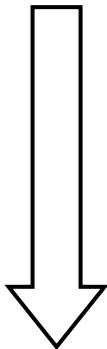
○小地域福祉活動を行う主体の把握と情報収集をする

各地域で実施されている小地域福祉活動を実際に行っている主体を把握してアプローチすることで社協とのネットワーク作りを行うと共に、活動内容、参加者、ボランティアを知ること、運営上の課題を認識し解決に向けてのサポートを行っていく。また、未実施の地域に向け、実施への働きかけをするためにも情報収集をする。

○住民団体、NPO、企業等も含めさまざまな主体をつなぎ活動支援する

さまざまな主体が活動している中で、それぞれの現状やニーズを踏まえつつ、各主体がつながる機会をつくることで、活動の広がりや、地域で互いに協力し合える関係づくり、体制づくりを進めていく。

【取組みの段階】

取組み項目	段階	年度
○専門員の認知・関係づくり		H24～
○福祉ニーズの把握		H25～
○ネットワークの構築（地域への参画の促進）		H26～
○個別課題を地域課題として捉える		H26～
○地域課題に対応する具体的な活動を支援する		H27～
○小地域福祉活動を行う主体の把握と情報収集をする		H27～
○住民団体、NPO、企業等も含めさまざまな主体をつなぎ活動支援する		H28～

(4) ニーズを抱える住民との関わり

○ニーズキャッチのための環境整備

・住民・民生児童委員・専門機関等から相談が持ち込まれるルートづくり

地域の中には自ら声をあげられない人や自分の課題に気づいていない人がおり、抱えるニーズは潜在化しがちである。そのため、専門員が積極的に地域の活動現場などに出向き、地域住民や民生児童委員が日々の活動を通じて知り得たニーズなどの情報を収集するとともに、専門員に相談が持ち込まれるような関係性を構築することで、相談が持ち込まれるルートづくりを進める。

また、地域住民などと協力しながら当事者に寄り添った支援ができる関係づくりを進める。

・見守り安心委員会や民生児童委員がニーズを受け止めやすいルートづくり

見守り安心委員会や民生児童委員などの地域の活動者が、身近な地域の中でニーズを抱えた人たちの声を受け止めやすい環境を作っていくため、ふれあい喫茶などの住民が集う場や住民同士が相談しあえる場など、ニーズキャッチしやすい活動づくりを支援していく。

・見守りでキャッチされたニーズを住民と協働して解決していくための仕組みづくり

市内の各地域で広まりを見せている高齢者等見守り活動を通してキャッチされた様々なニーズを、住民とともに見過ごすことなく協働して解決していくため、見守り活動でニーズをキャッチし解決に結びつけていくための仕組みづくりを進める。

・窓口強化（社協・支部の機能強化）（行政・社協の連携強化）

ニーズを抱えた人たちを地域で発見し、抱える問題を顕在化させていくのに、専門員を中心とした社協・支部の窓口機能や、様々な相談内容に対応するために社協と行政の連携を強化し、尼崎市社会福祉協議会として様々な相談を受け止め、対応していく。

○ニーズに対する支援

これらのニーズは制度の狭間や困難な課題を抱えていることが予想される。それらのニーズを支援するにはこれまでの行政・福祉サービスのみでは対応が難しい。行政・福祉サービスに加えて、既存の地域ネットワークや専門ネットワークも関わり、ニーズに対して重層的に関わる支援体制を構築する。

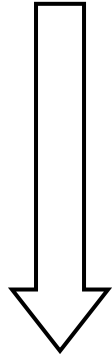
○ニーズを抱える住民への理解を深め、社会資源へ誘導する

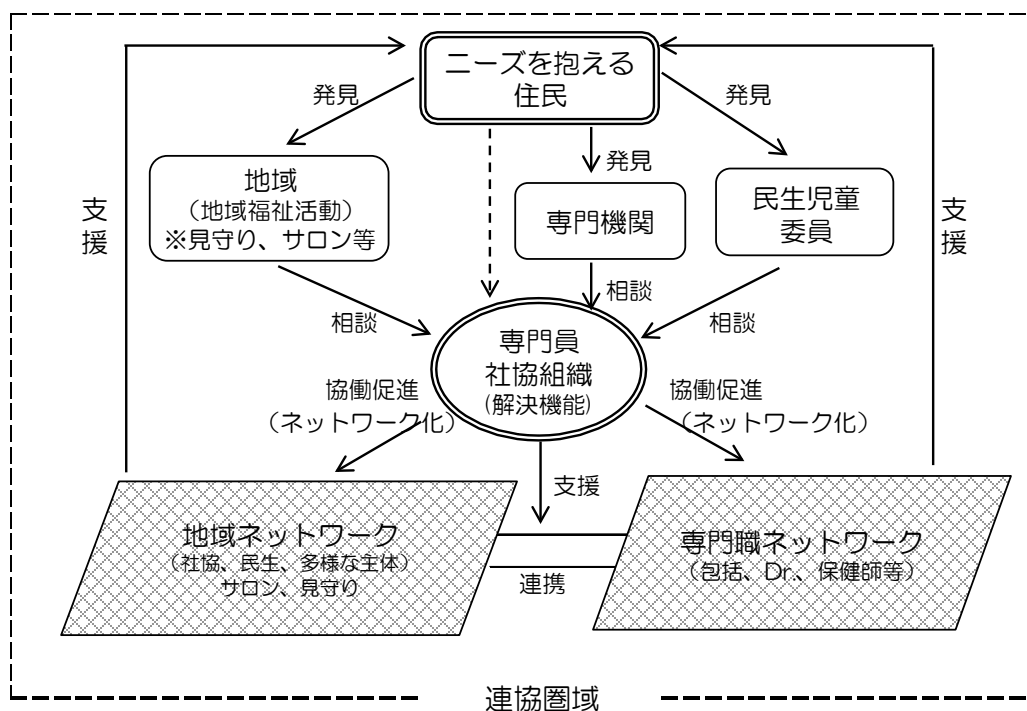
ニーズを抱えた住民の困りごとを、どのような状況から生じているのかより詳しく確認するとともに、その困りごとが解決の方向に向かうよう適切な社会資源の利用を促す。

○個別課題を地域課題として捉え地域で共有し、解決に向けて話し合う

個別課題への対応を行いつつ、地域づくりに向け普遍化することで、個人の生活課題としてではなく地域課題として共有する。今後、ニーズを抱えた人に地域として関わるができるよう、早期発見や課題の困難化の予防の仕組みづくりを地域住民と話し合う。

【取組みの段階】

取組み項目	段階	年度
○ニーズキャッチのための環境整備 ・関係づくり（地域・民生・専門機関等） ・関係づくり（社協・支部の機能強化） （行政・社協の連携強化）		H25～
○ニーズに対する支援		H25～
○ニーズを抱える住民への理解を深め、社会資源へ誘導する		H25～
○個別課題を地域課題として捉え地域で共有し、解決に向けて話し合う		H26～
		H27～
		H28～



3 専門機関（専門職）との関わり

○専門員の認知・関係づくり

制度の隙間・狭間の個別ニーズへの対応に取り組むため、専門員の地域での役割が「制度の隙間・狭間が発見された時に専門機関につなぎ解決に導く役割」であることをしっかりと認識し、専門機関と互いに困りごとや相談ごとを持ちかけられる関係をつくる。

専門職と専門員の役割をしっかりと相互に理解し、地域を大事にした人間関係づくりを行い、地域課題について話し合える関係づくりを進める。

○専門職とのチームワークが発揮できる関係性

専門職とのチームワークとネットワークの構築（協働）により、地域課題の解決への仕組みづくりや地域の連携づくりを行う。また、それらを可能とするために地域の生活・福祉課題等の情報及び認識の共有・交換を行なう。

○地域と専門職をつなぐネットワーク

制度の隙間・狭間の個別ニーズを専門機関につなぎ、ニーズの解決に取り組む。また、個別ニーズの解決のみで終わるのではなく、ニーズを抱えた当事者が専門職との関わりができた後も地域での暮らしがより安心・安全に暮らしていけるよう、専門機関につないだ後も引き続き地域との関わりが継続できるような働きかけを行なう。

さらに、制度の狭間の課題を解決していくための仕組みについて行政とともに検討を進めていく。

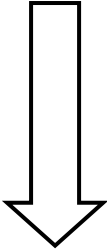
○ネットワークに個別課題を投げかけ、解決の糸口を探る

専門職間のネットワークにおいて、地域での個別課題をそれぞれの視点を交えて、より良い解決に向けた方策の検討を行う。

○個別課題を解決する中で専門機関のできることを互いに把握し連携する

個別課題の解決に向けた検討を通じ、それぞれの専門機関の役割や機能を理解し、地域で尊厳あるその人らしい生活ができるように支援の充実とともに、地域づくりに向けて連携をする。

【取組みの段階】

取組み項目	段階	年度
○専門員の認知・関係づくり		H24～
○専門職とのチームワークが発揮できる関係性		H24～
○地域と専門職をつなぐネットワーク		H26～
○ネットワークに個別課題を投げかけ、解決の糸口を探る		H27～
○個別課題を解決する中で専門機関のできることを互いに把握し連携する		H28～

4 行政との関わり

○行政との協力体制

専門員が社会福祉協議会に配置されている必要性を行政に理解してもらえるように、専門員の認知・関係づくりを行う。

また、地域ニーズを把握し、行政と協力出来る場（システム）づくりの中で、地域福祉施策の提言を行う。

○行政による支援体制

行政は、専門員が困難事例・福祉課題に対処する際の相談や支援、個々の縦割り機関を横断的に対応出来るように支援を行う。

また、行政は、団体組織・関係機関への関係づくりへの支援、国や県など必要な情報の提供を行うとともに、専門員が必要とする関連事業や人員への補助支援を行う。

○行政への働きかけ

地域が直面する福祉課題を解決する活動を支援してもらえるよう、専門員の活

動意義・必要性を訴え、事例を積み上げる。

また、個々の縦割り機関を横断的に対応出来る軸としての役割を果たし、ネットワークの形成を目指す。

5 コミュニティソーシャルワーカーとしてのスキル

○必要な知識・経験の積み重ね

専門員としてコミュニティソーシャルワーク機能を発揮するため、尼崎市における地域の歴史や特性についての認識や理解を深め、課題に気づき協議し解決する知識や経験を積み重ねる。

また、専門的知識・情報の獲得や専門職としての自己認識をしっかりと持つ。

○コミュニティソーシャルワーカーとしての技術

地域に顕在的に、潜在的に存在するニーズを課題・問題として捉え、共有や情報提供、関係機関への働きかけなど形づくる技術や協議し解決していく技術を身につける。

インテーク	アウトリーチ	情報の収集、分析、統合
アセスメント	プランニング	想像力、共感力
構成力	振り返り	コミュニケーション
スーパービジョン	地域ケアシステムの開発	

○地域課題・問題の解決能力

コミュニティソーシャルワーカーとしての知識・技術や社会資源を活用し課題を解決する。

また、困難な事例については、それを解決できるしくみを創り出す力を身につける。

○地域で問題解決できるようまとめる力

問題解決に向け集まった人々が目的を認識・共有し解決に至るよう支援し促す力を身につける。

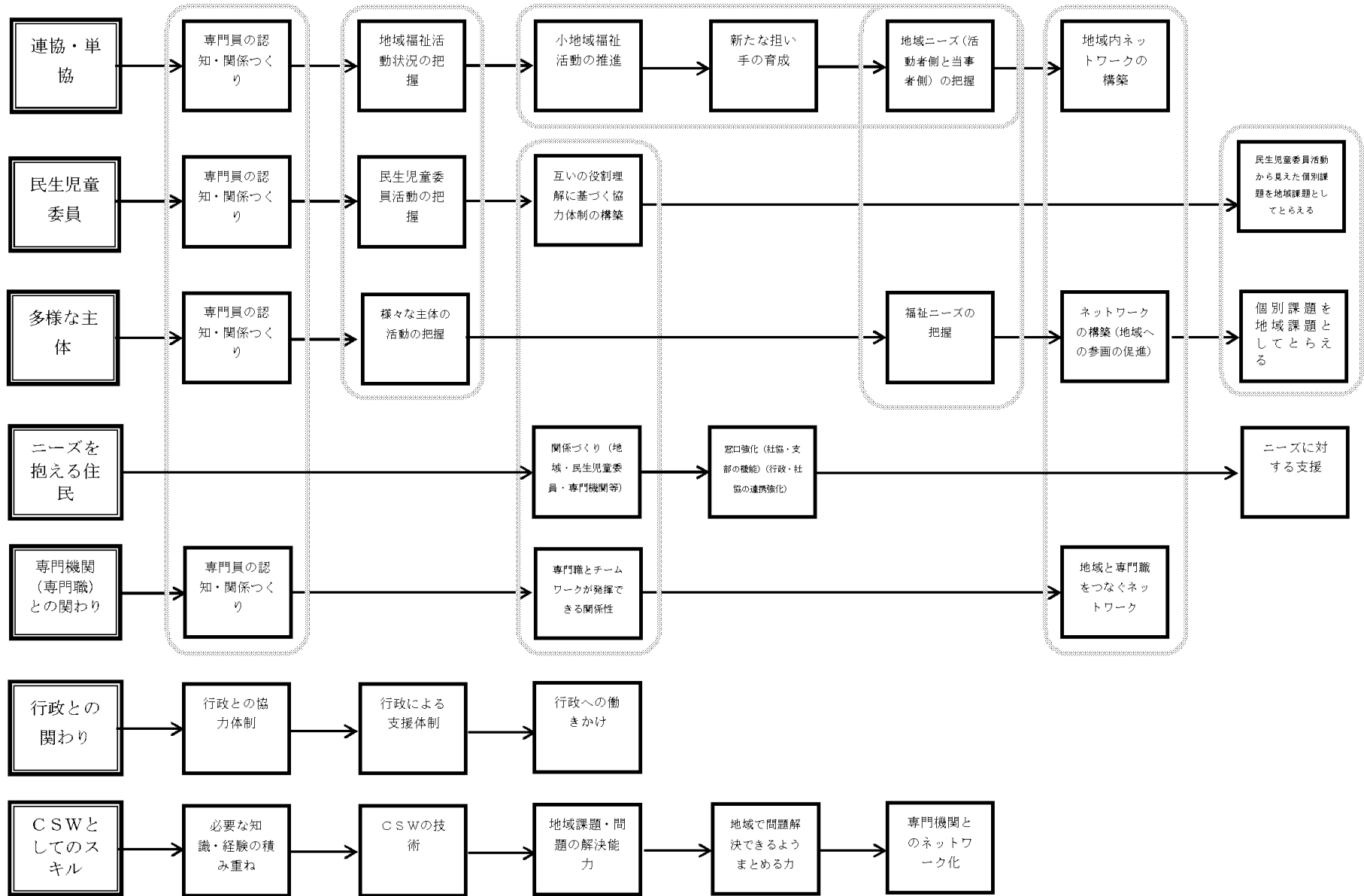
ファシリテーション	コーディネート
-----------	---------

○専門機関とのネットワーク化

コミュニティソーシャルワーク実践におけるネットワーク活用や強化には、住民と専門機関による連携と協働が不可欠であり、恒常的に変動するネットワークに対して柔軟で横断的な対応ができる力を身につける。

チームアプローチ

住民・団体・他機関等との関わりの流れと相関関係



年度ごとの取組みについて

年度ごと、関わりの対象ごとの、専門員の重点的な取組みについて以下に示す。

年度	連協・単協	民生児童委員	多様な主体	ニーズを抱える住民	専門機関（専門職）
H24	○専門員の認知・関係づくり ○地域福祉活動状況の把握 ○小地域福祉活動の推進	○専門員の認知・関係づくり	○専門員の認知・関係づくり		○専門員の認知・関係づくり ○専門職とのチームワークが発揮できる関係性
H25	○新たな担い手の育成 ○地域のニーズの把握	○民生児童委員活動の把握	○福祉ニーズの把握	○ニーズキャッチのための環境整備	
H26	○地域内ネットワークの構築	○互いの役割理解に基づく協力体制の構築 ○民生児童委員活動から見えた個別課題を地域課題として捉える	○ネットワークの構築（地域への参画の推進） ○個別課題を地域課題として捉える	○ニーズに対する支援	○地域と専門機関をつなぐネットワーク
H27	○従来の地域内ネットワークに属さない活動を把握する ○単協単位への啓発活動を行う	○さらに信頼関係を構築し、協力体制を強固にする	○地域課題に対応する具体的な活動を支援する ○小地域福祉活動を行う主体の把握と情報収集をする	○ニーズを抱える住民への理解を深め、社会資源へ誘導する	○ネットワークに個別課題を投げかけ、解決の糸口を探る
H28	○社会資源の見える化の検討をする ○引き続き単協単位への啓発活動を行う	○より細やかな支援が必要な相談や地域支援に関する相談を共に検討する	○住民団体、NPO、企業等も含め、さまざまな主体をつなぎ活動支援する	○個別課題を地域課題として捉え地域で共有し、解決に向けて話し合う	○個別課題を解決する中で専門機関のできることを互いに把握し連携する
H29					

地域福祉計画・地域福祉推進計画に基づき取り組む

評価指標について

指標 1 専門員の認知・関係づくりが進んでいるか

数量評価

数量指標	H24	H25	H26	H27	H28
地域活動(行事等)の訪問回数	4 1 4	4 8 2	4 3 4	6 5 0	4 9 0
相談受付件数	2 3 6	3 0 7	5 0 5	5 4 2	2 5 0

※H28年度は12月末まで。集計方法を整理。

質的評価

指 標 1-1:相談内容の深まり(難易度)

1. 今までになかった相談事例

●講座受講者から

- ・地域活動の担い手養成講座の実施後、ふれあい喫茶を行いたいとの相談を受け、立ち上げのために他のふれあい喫茶見学を調整し、また、各種情報提供する支援を行い、2か所の立ち上げに至った。

●住民から

- ・支部事業として子ども食堂の活動を先駆的に始めたところ、子ども食堂に取り組みたいという相談が徐々に増えており、運営方法や仕組みづくりの情報を情報提供した。実際に活動につながってきている。

●子育て支援で関わりのある放課後等デイサービス代表者から

- ・組織として地域活動に参加したいとの問い合わせがあり、放課後等デイサービスの地元で活動している老人給食グループを紹介した。放課後等デイサービスの利用者が老人給食グループの活動に赴き、食事やレクリエーションなどの交流から始まり、今では挨拶のできる関係が生まれている。

●介護老人保健施設から

- ・認知症カフェを実施したいとの相談を受け、地域包括支援センターと協力し、地域住民向けに認知症カフェを実施した。これを機に、社協、地域包括支援センターと介護老人保健施設との関係性が構築され、定期的に認知症カフェが実施されるようになった。

●子育て支援グループや関係機関で構成したネットワークから

- ・子育て支援に関する活動や情報をまとめた冊子を作成したいとの相談を受け、作成にあたり、新たな地域住民や関係機関にも協力依頼し、ネットワークの活動の周知や専門員との関係づくりも進んでいる。

2. 各種団体からの相談内容

●地域包括支援センターから

- ・関係性を構築するなかで、個別ケースで個人に関する情報や地域からの社会資源情報などが必要な場合は、適宜情報交換を行っている。
- ・サービスを利用されている方の隣の家庭の子どもの虐待が疑われるケースで相談を受け、地域からの情報収集や専門機関への調整を行ない、見守り支援体制を整えた。
- ・最近尼崎市に転入してきた夫婦で夫の身体に障がいがあり、日中妻が面倒をみている。妻も精神的な不安も抱えていることから、たまに家を覗いてもらうために見守り希望の登録ができないかと相談があったため、お住まいの地域の会長につなぎ、見守りで支援していただけるよう依頼し、実現した。

●民生児童委員から

- ・ふれあい喫茶の立ち上げ方法についての相談があり、他地区の運営方法等の情報提供や打ち合わせに参加するなどの支援を行った結果、開催されるに至った。
- ・民生児童委員と共に今まで関係性を築いてきた精神障がいのある生活保護受給者が、休日に自宅で亡くなられて担当ケースワーカーへの連絡ができなかった。地域の不安感に対応する必要が生じ、民生児童委員と共に訪問し専門機関へ連絡調整を行った。

●老人給食グループのボランティアから

- ・認知症のため利用日（曜日）が分からなくなっている参加者についての相談を受け、地域包括支援センターや民生児童委員と共に支援方法を検討した結果、近隣住民に気にかけていただくとともにケアマネジャーを通じたサービス利用につながっている。

●ケアマネジャーから

- ・「利用者が日中独居で不安になるので、地域の方に気にかけてもらえるよう協力をお願いできないか」と相談があり、見守り安心事業を紹介。登録につながり見守り対象となった。現在は近所に知人ができて、居宅での生活を継続できている。

●施設（高齢者デイサービス）から

- ・以前から社協が関わっている、育てにくさを抱える子どもたちが、施設で実施するイベントに参加していたので、施設と情報交換を行い日々の見守り体制の強化につながった。

指標 2 専門員による地域等の活動の把握が進んでいるか

数量評価

数量指標	H24	H25	H26	H27	H28
地域の会議・研修会の参加回数	261	321	437	549	355
地域カルテの作成数	0	0	74	75	75

※H28年度は12月末まで。集計方法を整理。

質的評価

指標 2-1：地域活動に関する相談内容

(住民、民生児童委員、各種団体などから)

● 民生児童委員から

- ・ふれあい喫茶の立上げ時に相談を受け、イベントの開催に必要な保険や経費について情報提供を行い、開催に至った。

成果②参照

- ・ふれあい喫茶の取組みを発展させ、男性の参加を促すコミュニティ居酒屋や子育て世代の参加を促す餅つきイベント、防災マップの作成など、様々な世代を巻き込んだ取組みを行う。福祉協会（自治会・町会）の加入促進も意識して取組んでいる。

- ・地区民生児童委員協議会の研修において、社会福祉協議会の事業や地域づくりの話をしたところ、民生児童委員から事業利用に際しての問合せがあった。対象者は事業利用につながり、地域での生活を続けている。

● 高齢者施設から

- ・社協が集い場づくりに力を入れているというPR情報が広がりを見せ、施設を地域に開放したいと相談を受けた。関係者のイメージ等を聞き取り、他施設の事例などの情報を提供することで、地域にひらけた居場所を両者で検討した。

● 障がい者施設から

- ・障がい者施設が主催するイベントに参加するなど、専門員と施設関係者間で関係性を構築していたため、施設から地域とのつながり作りへの相談を受けた。地域情報を提供し、今後のかわり方や事業協力について相互理解を深めた。

●学校関係、PTA から

- ・ 小学校を活用した子どもたちの居場所の取組みとして、夏休みの図書開放の企画で車イス体験と近隣で活動されているボランティアの方に依頼し工作体験を実施した。その後土曜学習に発展し、現在は子どもたちの学習内容について相談を受けるまでにいった。今後は福祉学習を進めていく予定である。
- ・ 小学校で行なわれる PTA 主催のまつりにて出店の依頼を受け、子どもたち自身が安心して暮らしている地域をもっと知ることによって地域愛を醸成するため、子どもたちと一緒に学校周辺のお店情報や「あまっこ 110 番の家」などを記載した子ども版地域情報マップ作りを行なった。

●医療機関から

- ・ 医療担当者とのミーティングで、今後のビジョンや目指す地域についての意見交換を行い、ふれあい支えあいづくりや地域の取組みで協働していくということで合意した。

●地域の福祉協会（自治会・町会）会長から

- ・ サービス事業所の部屋を一部開放し地域住民対象の体操やお茶会などの集いの場を立ち上げたいため、協力してほしいとの依頼があった。そのため事業所と地域をつなぎ、定期的に体操を実施できるように運動指導等の支援を行い、今後さらに地域のサロンとして展開していけるよう支援を続けている。
- ・ 連協会議や防災マップづくりをきっかけに、専門員が地域の課題等を住民が地域で話し合う場が必要だと会長等に働きかけ、地域福祉会議の立ち上げに至った。
- ・ 地域住民（連協会長、単組会長、老人クラブ会長、マンション役員等）から地域の健康づくり活動として、「百歳体操」や「あま・紡ぎ体操」の取組みについての相談があり、専門員が情報提供することで、実際に活動に至った。
- ・ 見守り活動実施地区の会長から地域の見守り活動の充実・効率化についての相談があり、記録票の簡素化を検討し、推進員・協力員の負担が軽減され、より見守ることに重点を置いた質の高い活動となった。

●老人クラブから

- ・ サロンの活動の内容について相談を受け、いろいろな人との交流の大切さを繰り返し伝えることで、老人クラブに限定しない住民が集えるサロン及び百歳体操の開催に至った。定期的に集える場ができたことで、住民間の安否や情報交換の場になりつつある。
- ・ 老人クラブ会長等から地域の集い場の充実を図るため 10 月から始まった尼崎市高齢者ふれあいサロン運営費補助事業についての相談があり、実施に向けて制度の説明をするなどの支援を行い、立ち上げに向けて準備している。

●地域住民から

- ・ふれあいサロン等の地域の居場所に関する相談があり、開始に向けて他実施場所への見学調整や、運営方法についてのアドバイス等の支援を行い、開始することができた。
- ・ふれあいサロンの実施継続についての相談があり、運営方法等についての意見交換を行い、現在も継続してサロン開催を行っている。
- ・ふれあい喫茶実施についての相談があり、実施場所の調整やボランティア募集等の支援を行ったことで、福祉協会（自治会・町会）会長や民生児童委員と共にマンション集会所にて、ふれあい喫茶を立ち上げることができた。
- ・福祉協会（自治会・町会）が独自に見守り活動をしている地区において、活動の参考として他地区の見守り活動の取組み等を紹介し、活動の活性化を促している。
- ・地域住民自ら行う防災訓練の情報も多く寄せられ、住民主体の防災訓練に支部も参加することで、住民と共に地域の課題について考えることができた。その結果、防災意識の醸成もなされ、住民が自らの地域を振り返るきっかけにもなった。
- ・商店街組合の会合に出席する機会を持つことができ、商店街組合の組織構成や役員、またその活動について情報を得ることができ、関係性を構築できた。
- ・自宅を活用した集い場を作りたいと相談を受け、どんな場所を作っていくか・経費の相談・広報の相談や地域との関係づくり等のサポートを行い集い場が立ち上がった。
- ・商店街の活性化を図る会議の中で、「子ども食堂」の相談を受けた。話し合いの中で孤食の子どもも高齢者も集える「地域食堂」を目指し、春休みを目途にプレ実施を行なうことになった。専門員は他事例の情報提供や運営相談などに関わり、実現に向けた支援を行っている。
- ・地域にある店舗から集会室を地域に開放して利用してもらいたいとの相談があり、地域拠点の一つとしての利用を地域へ提案している。

指 標 2-2：地域活動情報の発信

- ・地域の活動について、地域の医療機関、地域包括支援センター等の専門機関に対し情報提供を行っている。
- ・協議体において、地域資源マップを活用し、地域活動の情報共有により、そこから見える地域課題の把握を進めることで、組織の枠を超えた連携がされるようになった。
- ・福祉協会（自治会・町会）会長研修において、地区内の尼崎市高齢者ふれあいサロン活動グループの情報を提供したところ、ふれあいサロンに関心を持つ福祉協会（自治会・町会）会長も現れ、地域での高齢者ふれあいサロン運営補助事業の説明会につながった。
- ・取材した地域活動を見やすくビデオにまとめ、支部主催のボランティア講座などで上映したところ、「分かりやすい」と反響があり、地域活動を身近に感じ関心を持ってもらいやすくなった。

- ・連協会議に出席し、交流の場づくりについて、空き家・空き店舗などの場所の確保等について提案をした。役員の方々から、実際に場所の確保を考える時にはぜひ、一緒にやってもらいたいとの声を聞いたので、今後も支援していく。

● 広報誌、情報誌による発信

- ・定期的に発行している支部の情報紙に、毎号地域活動や専門員が関わる記事を掲載し、地域住民に周知を行っている。以前には参加のなかった地区から事業への参加につながっている。
- ・地域振興センターが発行する広報紙に集い場や地域活動について記事が掲載された。

指標 3 専門員の働きかけにより小地域福祉活動の推進が 図られているか

数量評価

数量指標	H24	H25	H26	H27	H28
講座・研修会等の実施回数	109	108	61	179	169
見守り安心委員会の設置数	10	12	3	4	2
ふれあい喫茶などの実施地域数	0	6	2	17	*68
活動グループの組織化数	0	3	1	1	4

※H28年度は12月末まで。集計方法を整理。

※※H28年10月「高齢者ふれあいサロン運営費補助事業」の開始による増を含む。

質的評価

指標 3-1：小地域福祉活動の必要性が理解されるようになった

1. つどい場支援

成果③参照

・「子どもの貧困」に関心を持つボランティアが開催する子ども食堂「塚口みんなの食卓」の立上げに協力し、継続運営を支援している。福祉協会や民生児童委員にも周知、協力を依頼した。しだいに、その理解についても浸透してきており現在は寄付金や食材提供等のボランティアにもつながっている。

・子ども食堂を二つの地区で開催したいと考えていた団体の立ち上げを、こども政策課の子育てコミュニティワーカーとともに支援し、まず一つ目の地区で両地区の専門員が関わり、主任児童委員と連携して開催に至ることができた。もう一つの地区での開催に向けても支援中である。また学校にもこのような新しい居場所が出来たことを周知し、子どもに向けてチラシ配布をする等、働きかけている。

・地域住民から「地域の居場所づくり」のための場所提供の提案があり、自分たちの地域課題の解決の場となるよう、当初から地域住民の方々にも活動に参画してもらえよう働きかけを行った結果、住民と専門職協働の居場所づくりが行われた。

・「つどいの場」創設支援にあたり、月2回支部が直接運営を行うつどいの場を開設し、地域に適した運営方法のノウハウ集積とともに担い手育成を行っている。

・ボランティアメンバーが、認知症に関わる地域の方の集える場を開催しはじめたが、活動が低迷してきたため、地域包括支援センターと共に立て直しの支援を行った。具体的

には、メンバーとの協議を重ね、活動停滞の解消に向けた見直しを行うなかで、地域住民を対象とした勉強会開催のために準備を進めている。専門機関の出張相談会などを取り入れながら地域のサロンを開催し、3~4か月に1回は地域住民を対象に勉強会等を行う計画を立てている。

- ・ 民生児童委員・住民・老人クラブ・社協（連絡協議会、福祉協会（自治会・町会））・施設・医療機関など各種団体から、地域の中での集い場の相談が増加しており、他事例の情報提供や運営相談など進行状況にあわせて関わり、実現に向けた支援を行った結果、それぞれ実際に取り組みを開始している。
- ・ 地域活動の拠点となる「つどいの場」づくりの必要性を社協会長や老人クラブ会長等へ説明し、ふれあいサロンや百歳体操などの活動につながった。

2. 子育て支援

- ・ 子育て支援グループで組織され、支部が事務局をしている「子育て支援ネットワーク」参画者に、地域福祉フォーラムで活動報告をしてもらうなど、参画者の経験値の向上やスキルアップもみられる。活動報告をしたことで、自らの活動を見つめ直すきっかけとなり、活動に対してのモチベーションが高まっている。

成果④参照

- ・ 市役所地域保健担当で関わっていた保護者達の想いを聴き取り、出張子育て交流会の実施につなげた。このことにより、より多くの子育て世代の孤立の予防につながることを地域の方に知ってもらえたり、地域でこのような活動をすすめていく重要性を認識してもらえた。今後は実施場所を増やすため、他の地域にも周知していく。

- ・ 公民館が主催する地域の子育て支援グループの連続講座において、ファシリテーターとして専門員が協力し、各団体・グループの状況や課題を把握するとともに、連携に向けた検討に入っている。

3. 福祉協会（自治会・町会）への働きかけ

- ・ 地域福祉会議を通じ、高齢者等見守り活動への取り組みについて検討を重ね、見守り活動の実施につながった。
- ・ 連協役員へ的高齢者等見守り安心事業の説明を繰り返し行うとともに、福祉協会へ説明を行うことで、取組への理解が深まり、年度内の実施にむけた検討へつながっている。
- ・ 「防災マップ」づくりを通じて地域の関係者とのネットワークを構築支援したことで、防災訓練だけに留まらない、新たな世代間交流の場づくりなどの地域活動につながった。
- ・ 防災マップづくりを通じて、継続的に連協会議での働きかけを行いつつ、連協内の関係性を構築することで、地域課題に対する意識醸成を図り、地域福祉会議の立上げにつながった。

4. 担い手養成、啓発

- ・地域からの希望により、地域包括支援センターの協力を得て、「認知症サポーター養成講座」を開催し、地域における理解者づくりを進めている。
- ・おたがいさまと言える関係の地域づくりにむけ、連協と一緒に講座を検討しながら開催することで、地域のなかでの理解者や支えあう意識の醸成が図られている。

成果⑤参照

- ・ 地域活動の担い手養成講座受講者が専門員の支援のもと、ふれあい喫茶を展開するなど多くのボランティア活動を行った。活動を重ねるうち、受講者間で信頼関係が生まれ、より活発な活動を行いたい、との意見も出ている。また、受講者が活動の様子を自らの居住地域に持ち帰って伝達もしており、徐々に活動の広がりも生まれている。
- ・ 学校関係者や育友会の合同研修会にて社協の事業紹介を行うと共に、新総合事業や地域包括ケアシステムの説明をし、今後の地域での支え合い活動の意識醸成を図った。
- ・ 小学生とその親を対象に、「視覚障がいについて」をテーマとした講座を実施した。実際に盲導犬と触れ合ったり、視覚障がい者の講師のもと点字体験を行うなど、当事者と触れ合うことで参加者の障がいに対する理解を深めることとなり、地域での多様性について考える機会となった。
- ・ 地域の若い世代の担い手を養成するため、中・高校生を対象としたボランティア養成研修及び意見交換会を行った。意見交換会に参加した中学生から「何かやってみたい」という意欲的な意見が聞かれたので、新たな活動につなげていくため、このような機会を設定していく。
- ・ 福祉協会（自治会・町会）会長や地域の方々の協力を得て、小学生向けに「地域ボランティア講座」を開催し、福祉教育の観点から地域福祉活動への興味と地域住民へのつながりを図った。

指 標 3-2：地域活動情報の広がり

- ・ 専門員が収集した資料を基に、子育てネットワーク参画者が自身の活動やネットワークの活動を地域福祉フェスタにて発表し、全市的な周知に至った。専門員は、報告資料作成の支援を行った。
- ・ 支部発行の地域活動情報誌を見た地域住民から活動への問い合わせがあり、活動者に専門員が紹介したところ、その住民が活動に加わり、地域活動の担い手が増えた。
- ・ 各種団体と情報交換を行っていくことで、地域で行なわれている活動の情報収集が行なえた。また、情報収集を行なう中で、一組織の活動であっても対象者を限定せず地域住民の方なら利用できる活動が増加した。
- ・ 社協会長や老人クラブ会長等に地区内で活動しているふれあいサロンや百歳体操のグループを紹介し、見学に同行することで、新たな地域のつどいの場づくりが広がっていった。

指標4 個別課題の地域課題化が進んでいるか

数量評価

数量指標	H24	H25	H26	H27	H28
地域福祉会議の設置数	2	1	0	0	1

※H28年度は12月末まで。集計方法を整理。

質的評価

指標4-1：地域から個別課題について相談されるようになった

1. 住民からの相談

- ・子育てネットワーク参画者から、「子育て」や「発達障がい」について悩んでいる親がいる、との情報が入った。他にも同様に悩んでいたり、テーマに関心のある親も多くいると参画者で話し合ううちに明らかになり、参加者皆で考えることができるように「子どもの育ち」をテーマにした、子育て世代や支援者同士の交流会を企画中である。
- ・見守り活動を通して、「気になる人」「認知症が疑われる人」等が地域住民の中で出てきており、会議の中で話し合われている。そこに支部や専門職も加わり、支援策等について話し合っただけで地域の安心感につながっている。
- ・NPO 法人主催の認知症カフェ立ち上げに、専門員が関わっており、認知症の当事者や家族介護者、また、福祉協会（自治会・町会）会長や民生児童委員、専門職、一般住民等に参加を呼びかけ、認知症について地域全体で考える場づくりが進められている。
- ・緊急通報システムの利用者の自宅訪問時に関わりを持った近隣の方から、「近隣の方に気になる人がいる」と相談を受けた。現在新たな緊急通報の活用にむけ、近隣の方に関わってもらっている。
- ・居住している団地内である方の問題行動が見られて困っているという相談があり、確認したところ、すでに地域包括支援センターが関わっていると判明した。協働して対応するために、情報や課題を共有し、役割分担を行い、今後の双方の動きについて確認し、この内容を伝えたことで、地域の困り感が軽減した。
- ・地域内での親のネグレクトに関する情報がいくつか寄せられ、地域でできないことがないか「子どもの居場所づくり」を検討するため、先駆的に「子ども食堂」を実施している連協会長を招き、研修を行った結果、「子ども食堂」実施に向けての準備が行われ始めた。

成果⑥参照

- ・住民主体による地域課題の把握や解決を図るため、地域福祉会議設置に向けた働きかけを行い、立ち上げにつながった。

2. 関係機関からの相談

●地域包括支援センターから

- ・地域ケアチーム会議において、引きこもり防止のための検討の中で、民生児童委員から地域の居場所をつくるための場所提供の提案があり、その場所でふれあいサロンを実施することに決定した。
- ・地域包括支援センターや地域住民から気になる人の相談が複数あり、見守り活動へつなげた。

●民生児童委員から

- ・ふれあい喫茶の中で、参加者の間で話題となっていた自宅の衛生状態に課題を抱えるケースの相談を受けて、地域住民と一緒に訪問した。その際に見守りにつながる映画上映会や喫茶の取り組みに興味を持たれたので、施設で行うシネマカフェやふれあい喫茶の活動につながった。現在は施設イベントの情報提供と地域とのつながりづくりに関わっている。

●特定・障がい児相談支援事業所から

- ・ベランダの汚れがひどく、日常生活に支障が出ている母娘について、「地域の方にベランダの清掃等に協力いただけないか。」と相談があった。地域の会長に相談し清掃の協力を得られることとなった。交流の少ないマンションではあるが身近に支援を要する方がいる地域課題として地域住民が意識できるよう会長を支援している。

指 標 4-2：地域における地域課題の共有

1. 子ども世代への支援者から

- ・子育て支援活動の一環として子どもの居場所づくりに向けて地域の人たちと話し合いを進めている。

成果⑦参照

- ・小学生の放課後の学び場の取組みに参加している高校生・大学生ボランティアで、現在子どもたちが抱える課題や、尼崎市の子どもの取組みなどの研修を行い、地域における子どもの課題の共有を行い「Viva～虹色のシャボン玉～」の取組みへつながっている。
- ・放課後の小・中学生が安心して自由に過ごせる場所づくりについて、NPO・主任児童委員・子育て支援グループ代表・地域住民・子育てコミュニティワーカーと一緒に立上げの検討を行い、「まちの寺子屋」として活動が始まっている。

2. 協議体から

成果⑧参照

- ・ 協議体の中で地域の抱える課題の1つに「認知症」があり、認知症になっても暮らしていける地域づくりのため認知症の方をささえる「みんなでささえ隊」の講座を企画実施した。受講者の方と認知症についての学びを深め、実際に地域の中で声かけや施設でのボランティア活動につながった。また講座受講生で今後も茶話会等の開催を呼びかけ、活動の情報交換等を行っていく。
- ・ 「認知症」をキーワードに、各種団体(地域包括支援センター・社協・民協・医療関係・NPO法人・社会福祉法人・企業等)が連携を図れるよう話し合いのできる場を設けた。これをきっかけに参加者間の情報交換もしやすくなったという声もあり、今後も様々な地域の課題をテーマに分野問わず連携が図れる話し合いの場を設けていく。
- ・ 地区協議体のコアメンバー間において、個別課題をもとに地域課題の把握や解決に向けた検討を行っていくため、定期的に課題抽出を行う動きとなっている。

3. 福祉協会（自治会・町会）から

- ・ 地域福祉会議や連協会議において地域課題を共有するための話し合いを行い、会長同士の会話が促進し、互いに情報共有や話し合いができるようになった。
- ・ 防災マップづくりを通じて、災害時のみならず日常的な地域課題についての気づきやその共有を図った結果、連携が強化され、地域福祉会議立ち上げにつながった。

指標5 個別課題を解決するためのネットワークの構築が進んでいるか

数量評価

数量指標	H24	H25	H26	H27	H28
見守り活動でキャッチした個別課題の数	16	13	29	59	54
個別課題を解決するネットワーク化のために調整を行なった回数	8	10	92	159	329
地域の課題を解決するための会議への参画数 (住民との協力体制)	17	32	32	152	148
ネットワーク会議への参画数 (専門機関との協力体制)	19	32	126	240	208

※H28年度は12月末まで。集計方法を整理。

質的評価

指標5-1：地域や専門機関からの相談内容

- 子育てを目的とした関係機関が集まった子育て支援連絡会から

成果◎参照

・ 子育て支援連絡会主催で運営している子ども食堂は、地域住民も共に運営を行っているので、定期的に情報を共有できる場となっている。また、日頃からの連携により急な個別ケースにも即座に対応ができています。

- 地域包括支援センターから

・ 地域ケアチーム会議での事例検討から判明したケースで、当事者の方を地域の見守り活動やふれあい喫茶、地域食堂などの地域活動につなげる支援を行い実現できた。

- 大学とボランティアセンターから

・ ボランティアセンターより、大学に通っている視覚障がい者の方から何かボランティアがしたいと相談が入り、本人さんと大学・ボランティアセンター・専門員の4者で面談を行い、夏休み地域で小学生を対象とした居場所支援を行なっているボランティアと調整した結果、点字の体験の講師としてのボランティア活動につながった。

- 医療機関から

・ 診療所事務長から、無料低額診療で受診している事例についての金銭的支援の手段や生

活相談等を受け、専門機関（社協 生活福祉資金貸付、しごと・くらしサポートセンター 尼崎）へつなげるケースが発生し始めている。

●市役所地域保健担当から

- ・子どもの虐待が疑われ、障がい児を抱えている等の複合課題がある家庭のサポートのため、利用できそうな地域資源（地域住民が主催している子育てサークル）と公的サービスにつなげた。

●地区会館で活動しているボランティアから

- ・地域包括支援センターや認知症についての理解を深めたいとの話があり、認知症サポーター養成講座と学習会の開催につながった。

●地域包括支援センターから

- ・一人暮らしの高齢者（認知症）の地域での見守りや緊急時の家族への連絡等についての連携ができないかとの相談があった。見守り実施地区でもあったので見守り推進員・協力員と担当ケアマネジャーでケース会議を開催し、連携を図り対応した。

●高齢者等見守り安心委員会の推進員から

- ・「児童虐待と思われる子育て中の親」について相談を受けた。意識が高まるよう会議出席などを通じてささえあいの大切さを説明し、見守り活動が高齢者以外へも対象として広がっている。

●防災マップづくりから

- ・連協内の小・中学校育友会及び障がい者福祉施設等の参加を促し、作業を通じてネットワークが構築された。また、障がい者福祉施設と隣接する高等学校との合同避難訓練が行われ、その際に地域の人と障がい者福祉施設職員、高等学校の校長先生・教頭先生等との顔の見える関係づくりができた。

指 標 5-2：個別課題の解決のための情報共有

●尼崎市障害者自立支援協議会「あまのくらし部会」から

- ・専門員の活動を紹介するとともに、地域での障がい者支援についての意見交換を行った。障がいを持つ方が地域生活で感じていることは、地域が抱える課題につながっていることを確認した。

●小学校から

- ・「冬休み期間の子どもの食の支援」を求める相談があり、子育てコミュニティーワーカーと現状の情報を整理し、子育て支援で協力しているコープこうべで「お昼ごはん会」を開催することになり、子どもの支援につながった。

●しごと・くらしサポートセンター尼崎から

- ・ 仕事探しを行っているが就労が難しいケースの方の相談をしごと・くらしサポートセンター尼崎から受け、お住まいの近隣にある病院のコミュニティスペースでの図書の片付けボランティアにつながった。また、病院のボランティアを続けていくため、病院、しごと・くらしサポートセンター尼崎・ボランティアセンター・専門員の4者でケースの情報共有できる場の設定を行った。

●保護課から（生活保護ケース）

- ・ 長年ゴミ問題を抱える当事者と調整のうえ、担当ケースワーカーと調整し手数料減免による臨時ゴミ回収につながった。今回は玄関周りの一部のみであり、当事者の生活意識の改善には時間をかけた支援が必要である。今後も関係者との継続した情報共有を行う。

●地域包括支援センターから

- ・ 地域ケア会議代表者会議や、地域ケアチーム会議に参加し、個別課題や地域課題の把握・解決に向けたネットワークづくりを行うとともに、情報交換・共有を行っている。

地域福祉活動専門員による働きかけとその成果等

成果①

(指標 1) 専門員の認知・関係づくりが進んでいるか

(中央地区)		中央子育てネットワーク活動の冊子づくり
関わりの視点		中央地区で活動する子育て支援グループや関係機関などで構成された中央子育てネットワークの調整役として、情報が見える化し、発信することで子育て支援グループの活性化や、新たな人材としての支援者の発掘を目指す。
関わりの内容		<ul style="list-style-type: none"> ○多くの子育て支援者が参画する中、活動の情報や子育て支援に関する情報が広く行き届かないという課題が話し合いの中から明確になった。 ○子育てに悩んでいる親や、子育て支援を行いたいと考えている人向けに情報が行き届くよう、中央子育てネットワーク参画者のサークル情報や行政の支援情報等を盛り込んだ冊子を作成することとなった。 ○事務局を担う専門員は、冊子作りに際して、子育て支援に携わる地域住民や行政に参画を呼びかけ、編集会議の実施や、子育て支援に関する情報の集約、整理、配布先の調整を行った。
連携した社会資源		子育て支援グループ、子育てコミュニティワーカー、子育て広場、中央公民館、尼崎市(子ども政策課、子ども家庭支援課、中央地域振興センター、教育委員会)、ボランティアセンター、社協支部(専門員含む)
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	○今まで活動が見えにくかった子育て支援グループの情報等が分かるようになったことで、子育て支援に直接携わっていない地域住民(福祉協会(自治会・町会)会長や民生児童委員等)にも関心を持ってもらえた。
	課題	○今後継続的に冊子を発行していくにあたり、費用の捻出が課題である。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○冊子作成に際し協力を改めて呼びかけたことで、中央子育てネットワークの活動の周知にもつながった。 ○協力団体・機関とは、専門員との新たな関係性も築くことができた。 ○支援の活動や情報が見える化されたので、多くの関係者に配布することで情報がより広範囲に届くようになった。 ○今までの活動を見返し整理する機会となり、中央子育てネットワーク参画者としても自身の活動の振り返りができモチベーションの向上にもつながった。 ○冊子を通して活動の周知ができたので、子育て支援グループへの参加者も増えた。




はじめに

私の子育てが始まった時に感じたのが、中央地区は、サークルなどの集まりが少ないということでした。それならば自分が行きたいと思うようなサークルを作ろうと仲間とアマフレを立ちあげました。でも実は、私が掲げられていなかっただけだったのです。

この冊子をご覧いただければお分かりになると思いますが、中央地区にはサークルも集まりも子育てで広場もあるんです。この冊子に載っていない集まりやサークルもあります。

私のママ年齢は4歳です、4年の間に何度もしんどくなり泣いたこともたくさんありました。子育ては、楽しいこともありますが、しんどいことも多い・・・どうすればいいのかわからなくなることもたびたび・・・あなただけではありません。みんなおんなじなんです。そんな時に同じ悩みを持った仲間を持つことができれば、話すことで少し家になることもあるでしょう。そして、サークルや集まりを開催している方々の中には、たくさんの先輩ママ達がいまいます。あなたは、一人ぼっちではありません。一歩踏み出してみてください。あなたを応援してくれる方々がたくさんいますよ。


そして、1つのサークルや集まりが自分に合わなかったからといってあきらめないでください。実は、サークルや集まりは、開催する人やスタッフによって雰囲気も全然違うんです。参加しているママの年齢層が違うことも・・・ぜひ、いろんなところに参加してみてください。きっとあなたに合ったところが見つかると思います。もし、見つからない時は、自分で作ってしまうのも有りですよ～！そんな時にもこの冊子は役に立つと思います。この冊子がママ・パパの笑顔のきっかけとなることが幸せになることを願っています。

アマフレ 太田





 1

もくじ 

○はじめに	P1
○もくじ	P2
○中央地区で活動する子育て支援グループ	P3～21
・はぐたいむ	P4
・アマフレ	P5,6
・子育てサークル 3B 体操ステップ	P7,8
・おはなしの会 トトロ	P9,10
・Happy スクラップブックング	P11,12
・子育てサークル ばんだっこ	P13,14
・子育てサークル 姫バラ	P15,16
・ひよこ学級	P17,18
・リトミックどれみ♪	P19,20
・ママのための「リフレ体操」	P21
○中央子育てネットワーク5年間のあゆみ	P22～26
○知っててトクする!?子育てがちな情報紹介	P27～33
・つどいの広場 えがお	P28,29
・子育て支援グループを立ち上げ情報 (立ち上げ支援、活動場所、活動資金情報 etc...)	P30,31
・役に立つ!子育て情報のページ	P32,33
○おわりに	P34

2

(指標2) 専門員による地域等の活動の把握が進んでいるか

(小田地区)	はま喫茶 立上げからその後の活動の広がりについて	
関わりの視点	<p>○民生児童委員から受けた個別ケースの相談から地域活動の展開につなげる。</p> <p>○ふれあい喫茶の活動を中心に住民同士のつながりの場を拡大し、新たな地域活動につなげる。</p>	
関わりの内容	<p>○個別ケースの相談受付</p> <p>○ふれあい喫茶の立上げ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生協力員とふれあい喫茶の立上げについて検討 →他の活動グループの情報提供などのアドバイスを行い、目的の共有、地域の中での協力者の確保、場所、開催頻度などを確認 ・協力者全員でふれあい喫茶についての詳細決め →上記の件の再確認、経費や開催日程、対象者や名前など <p>○ふれあい喫茶開催後の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を運営する上で生じた相談に対応 ・新たな活動を行う際の相談に関わる 	
連携した社会資源	民生協力員・福祉協会・地域包括支援センター・幼稚園・地域住民	
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	<p>○今まで地域住民同士が関わる活動の少なかった地域で、世代や団体に縛られることのない地域活動に発展し活動を展開している。</p> <p>○今までお話をする機会の少なかった住民同士の交流が増え、顔見知りの関係が広がっている。</p> <p>○参加者間で困りごとを聞き取った際は民生協力員のスタッフから専門員に伝えてもらい、必要な支援につなげている。</p>
	課題	○新しい参加者や担い手確保のための地域での広報
	成果	<p>○ふれあい喫茶を中心に、男の人たちも集える夜の居場所「はまBAR」の開催や、多世代が集えるお餅つき「はまぺったん」、地域独自の「防災MAP」など高齢者だけではない多様な世代が関われる地域活動に発展している。</p> <p>○個々の地域活動によっては、老人クラブや福祉協会など主催が異なるものの、うまく連携しているものもあり、新たな担い手発掘につながっている。</p> <p>○住民の自由な発想から活動が生まれており、主催者の自発的な提案に周囲が協力していく形が定着している。</p>

はまBAR開催のお知らせ



下記の通り、第6回目の「はまBAR（はまバル）」を開催します。

と き 平成29年2月18日（土）17：00～19：30

と ころ はまようちえん コミュニティ・カフェ&ワークショップつながりのき（はまようちえん1階）

内 容 今回のテーマは泡盛と沖縄料理です。
ゴーヤ、豚足、ミニガーなどで寒い冬をのりこしましょう。
もちろん、ビール、日本酒、焼酎やソフトドリンクもあります。

***持ち込みも大歓迎です！！**

会 費 ワンコイン（500円）

目 的 まちの「たまり場」のような雰囲気の中で酒と肴を共に味わい、タイガース談義なども交えて、浜南の人びとに開かれた地域コミュニティの場を目指します。

主催 浜南社会福祉協会

参加ご希望の方は、2月12日（日）までに下記宛ご連絡願います。

島田 一郎

電話：6499-3383

携帯：090-4282-5031

Email：ishimadae@nfmall.com

第13回はま喫茶のご案内

日時：平成29年1月17日（火）13：30～15：30

場所：浜南社会福祉会館

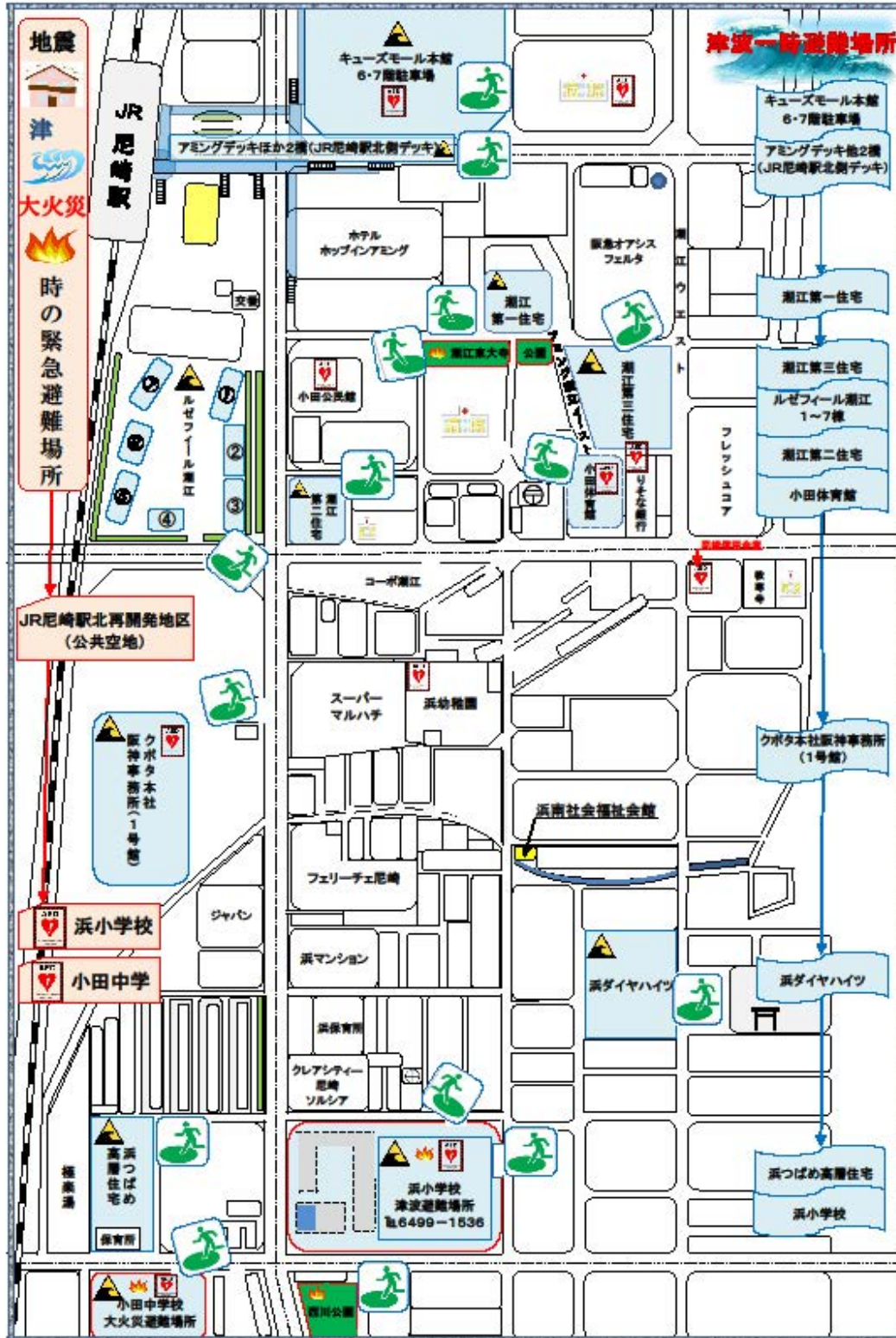
会費：100円

コーヒー、緑茶、お茶菓子を用意しています。

午後のひと時をおしゃべりしながら楽しく過ごしましょう。



浜南 防災MAP



(指標3) 専門員の働きかけにより小地域福祉活動の推進が図られているか

(立花地区)		塚口みんなの食卓(子ども食堂)の取組み
関わりの視点		<ul style="list-style-type: none"> ○活動するボランティアグループの意思を尊重しつつ、安全性を重視し適切に情報提供及び活動支援をする。 ○支援を必要とする世帯だけでなく、子ども達が参加しやすい地域の居場所となる。
関わりの内容		<ul style="list-style-type: none"> ○「子ども食堂」に関心を持つ発起人がブログでボランティアを呼びかけ、「塚口みんなの食卓」を立ち上げた。地域外の方々での活動のため、地域へのつなぎと周知協力を行った。 ○活動立ち上げに際し、活動保険や衛生面の確保等についての情報提供をはじめとした活動支援と、その後の安定的な活動継続のための支援を行っている。
連携した社会資源		地域総合センター上ノ島、老人給食ボランティア、連協、立花地区民生児童委員協議会、園田学園女子大学、県立尼崎高校、フードバンク関西、社協ボランティアセンター
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域総合センター上ノ島等の協力で、子どもたちが多数参加している。 ○中心メンバーが地域外のボランティアで、地域住民等の関わりがなかなか得られなかった。地域住民や学校、他団体等に趣旨の理解・協力を伝え続け、周知されるとともに老人給食ボランティアとの交流、地域住民や学生ボランティアの参加、寺や個人からの食材及び資金寄付、民生児童委員や主任児童委員の参加や情報共有が行われている。 ○参加した保護者が「地域全体での子育て」に関心を持ち、ボランティアとして活動参加するなど互いに協力する意識が芽生えつつある。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの居場所としての活動や企画の検討 ○ボランティア間での活動目的や情報共有のあり方 ○地域住民や学生ボランティアなど協力者の確保 ○財源の安定的な確保 ○学校やPTAとの連携 ○支援を必要と考えられる子どもへのアプローチ
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○地域への活動周知が進み、自らの地域について考えるきっかけとなりつつある。 ○地元の連協・民協等とのつながりを支援することで、地域の活動として応援していきたいという意識が醸成されつつある。 ○学生ボランティアにも学びの機会となっている。 ○多様な年齢層や課題を抱えた方が、自由に参加できる居場所になっている。



塚口 みんなの食卓

あいことばは「ばんごはん、たべた？」

★みんなでいっしょにたのしくごはんを食べる会です★

場所：尼崎市立地域総合センター上ノ島（本館）

〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町 8-7-25 Tel & Fax : 06-6429-7640

食事提供：6時～8時（なくなり次第終了です） 参加費：無料

1/13（金） 1/27（金） 2/10（金） 2/24（金）
3/10（金） 3/24（金） 4/14（金） 4/28（金）

小学1年生以下は保護者同伴で、小学生以上は一人でも、親子でも、おじいちゃん・おばあちゃんと一緒でも、二十歳以下の若者やお子さん、お家の方も参加できます。

ボランティア募集中！一緒にお料理しませんか？

連絡先：岩崎 Tel : 070-6521-0200

主催：塚口みんなの食卓、尼崎市立地域総合センター上ノ島



(指標3) 専門員の働きかけにより小地域福祉活動の推進が図られているか

(大庄地区)		出張子育て交流会の実施支援
関わりの視点		乳幼児を育てている中で、孤立する保護者の解消及び地域とのつながりが希薄な若年層と地域との関わりを支援する。
関わりの内容		○家族以外との接点が少ない第1子0歳児子育て中の保護者に働きかけ、居場所を作り集いの場として活用してもらい、育児不安やストレス解消をはかる。 ○地域の方(青少年健全育成協議会)に関わってもらい、地域の中に小さな子どもがいる家庭の存在を認識してもらうことで、つながりを持つきっかけとなり、地域住民としてお互い気にし合える存在となるように持っていく。
連携した社会資源		大庄地区青少年健全育成協議会、大庄地域保健担当、大庄西連協
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	○地域に子どもが少なく、子育て支援資源も少ない中で、子育て支援の必要性を認識されはじめた。 ○子育て中の保護者からは、「住んでいる近くで実施されて参加がしやすい」との声が聞かれた。
	課題	○現在は大庄地区青少年健全育成協議会事業として行っているが、今後広がっていくに伴い協議会の規模と照らし合わせどのような形で関わっていくのか考える必要がある。 ○この場を地域の人に認識してもらい、定着させ、どのように若年層と地域の方々とのつながりづくりをしていくかの検討が必要。
	成果	○子育て支援事業、特に乳幼児対象としたものがほとんどなかったが、この事業が始まったことにより、他の地域でも子育て支援を検討する動きが見えはじめている。

(指標3) 専門員の働きかけにより小地域福祉活動の推進が図られているか

(中央地区)		担い手養成講座受講者へのフォローアップ
関わりの視点		担い手の育成を進めるとともに、活動の受け皿の創出やモチベーションの維持、活動意欲の引き出しなどのフォローアップを行う。
関わりの内容		<p>○受講者同士の交流する機会や仲間づくりをする機会が少なく、もっと交流したかったという声もあり、受講者同士がつながるように交流会や事業の中でカフェコーナーを実施した。</p> <p>○受講者から、ふれあい喫茶を実施したいとの相談があり、実施に向けてイメージを固めるために他のふれあい喫茶の見学を一緒に行なったり、助成制度の説明を行うなどの支援を行った。</p>
連携した社会資源		民生児童委員、単組、中央地区で活動するふれあい喫茶やサロンのボランティア、子育て支援グループ
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	<p>○受講者が中心となり、地域につどい場(ふれあい喫茶)が立ち上がる機運が生じ、実際に立ち上がった。</p> <p>○受講者同士の交流の場を設けたことで、講座以外でもお互いの活動や見学に参加し、積極的に受講者同士が交流するようになった。</p> <p>○講座では高齢者中心の内容だったが、受講者は子育て支援グループの七夕まつりにカフェコーナーとしてブースを担当した。これを機に、受講者は、子育て支援についても学ぶ機会となり、問題意識を深めるとともに、ボランティア活動の重要性について考えることができた。</p> <p>○避難所訓練に防災カフェコーナーを実施し、受講者自らアルファ化米の試食や紙食器の作り方のレクチャーを行った。</p>
	課題	○受講者から担い手養成講座の受講者仲間、もっと活発な活動をしたいとの声があり、グループ化も視野に入れつつ、更なる活動の受け皿づくりが必要。
	成果	<p>○地域のつどい場が新たに2か所立ち上がった。</p> <p>○担い手の発掘として、ボランティア活動をしたいが、実現できていなかった層の掘り起こしができた。</p> <p>○実践体験によるスキルアップとして、実際にボランティア活動を行うことで、活動のイメージ形成や活動意欲の引き出しが行えた。</p> <p>○既にあるふれあいサロンへ新たにボランティアとして参加するなど他の地域活動につながった受講者もいた。</p> <p>○事業でカフェコーナーを実施することで、事業の質としても高くなり、参加者からは好評を得ている。</p>

担い手養成講座受講者へのフォローアップ支援<参考資料>



子育て支援グループ主催の七夕まつりにカフェコーナーを出店。参加された親子にカフェの提供を行いました。紙芝居が得意な受講者がいたので、参加者の前で披露してもらうなど、各々の特技を活かして活動しています。
子育て支援やボランティア活動の重要性について考えました。

避難所訓練に防災カフェを出しました。受講者自らアルファー化米の試食提供や紙食器作りのレクチャーを行いました。防災についてあまり考えたことがなかった受講者もあり、大変勉強になったとの声もありました。



(指標 4) 個別課題の地域課題化が進んでいるか

(武庫地区)		第3地区 地域福祉会議の立ち上げ
関わりの視点		地域の課題に気づき自分たちで話し合う土壌をつくる
関わりの内容		<p>○連協内の会長同士の「顔の見える関係づくり」を図るため、定期的な福祉協会会長会議開催への働きかけを行い、定期的に(2ヶ月に1回程度)開催することとなった。</p> <p>○防災マップづくりのまち歩きや地域調べの活動を通して構築された他団体との関係性を活かし、マップが完成したあとも定期的に集まり、地域の生活、福祉課題について話し合うことの必要性・重要性について参加した会長や地域の方に説明・周知し、地域福祉会議の立ち上げとなった。</p>
連携した社会資源		民生児童委員、老人クラブ、武庫地区子ども会、少年補導委員
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	<p>○会長同士の会話が促進され、社協事務局を介さずとも、互いに情報共有や話し合いができるようになってきた。</p> <p>○地域でいま何が課題なのかを会議で扱うことで、参加者の地域への関心が高まってきている。</p>
	課題	○構成メンバーの中には、まだあまり主体的でない団体もあるが、今後も会議を重ねることで共通理解の醸成をはかる。
	成果	<p>○会長等への働きかけを行うことで、定期的な福祉協会会長会議が開催された。</p> <p>○防災マップづくりの活動を通して連携強化となり、12月の地域福祉会議立ち上げにつながった。</p> <p>○今後、2ヶ月に1回程度で地域福祉会議を開催し、地域の課題等について話し合い、具体的に取り組む内容を検討していけるようになった。</p>

(指標4) 個別課題の地域課題化が進んでいるか

<p>(小田地区)</p>	<p>小学生を対象とした放課後の学び場の開始 V i v a ~虹色のシャボン玉~</p>	
<p>関わりの視点</p>	<p>○地域の中での子どもたちの居場所づくり ー子どもたちのベースをつくるー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家や学校で発せられない胸の内をつぶやける場所 ・異なる世代と交流することで、コミュニケーション力を高める <p>○地域の中での若い担い手の育成</p> <p>○小田地区内で子どもを対象にした居場所支援の取り組みの拡充 (Viva をモデルケースとして運営することで、他の地区で取組みを進める際の情報源にする)</p>	
<p>関わりの内容</p>	<p>○活動の企画実施</p> <p>○ボランティアの募集</p> <p>○学生ボランティアとの活動内容決め</p> <p>○広報(地域・学校・フォーラムなど)</p> <p>○活動継続のための学生とのミーティング など</p>	
<p>連携した社会資源</p>	<p>地域振興センター・大学・高校・こども政策課・スクールソーシャルワーカー・民生児童委員・社協・ボランティア・地域保健担当・NPOスマイルひろば・地域包括支援センター・子育て活動団体、小学校 など</p>	
<p>関わり後の地域の活動状況等</p>	<p>地域における変化</p>	<p>○既存の地域組織に縛られない活動のため、新たな活動者が手をあげている。(学生や運営支援ボランティアなど)</p> <p>○子どもたちが宿題や遊びを通して異なる世代と交流できる場となっている。</p> <p>○地域広報紙の掲載記事を見た住民から、人と関わることは苦手だが、なにか手伝いたいとの問合せがあり、おやつを差し入れるボランティアとして協力してもらうことになった。</p>
	<p>課題</p>	<p>○参加者が人づてで増えているが小学生や地域への広報が不足している。</p> <p>○大学生のボランティアは場作りには参加していたが、開催時間(16:30~18:30)が大学の授業時間と重なるため参加や定着が難しい。</p> <p>○進級や進学に伴う学生ボランティア後任者の確保や育成。</p>
	<p>成果</p>	<p>○働いている親や子育てにしんどさを抱える親の子どもたちが参加しており、子どもたちの「居てもいい場所」、親にとっては「少しほっとできる時間をつくれる場」ができた。</p> <p>○既存の組織とは関係なく、若年層や今まで組織に属していない方がボランティアに参加している。様々なボランティアを受け入れる場となっており地域の新たな担い手を発掘する機会になっている。</p> <p>○参加する学生ボランティアはコンセプト作りから取組んでいるため、「自分たちの場所」という想いが醸成されている。</p> <p>○子育て交流イベントの報告を見て関心を持った人や、取組んでみたい人からの相談が徐々に増え始めている。</p>

Vivaをはじめのきっかけ

学校終わり、お家に「ひとりぼっち」の子どもたちが増えている

- ・ 尼崎市の状況：生活保護世帯や若年出産が多い、共働き家庭の増加、不登校率が高い
- ・ 実際に専門機関からの相談や関わるのケースで気になる家庭があった
- ・ 子どもたちがQモールやコンビニに集まっているとオトナは心配

子どもたちが放課後、ふらっと立ち寄り

宿題したり・遊んだり・子どもたちの「たまり場」があれば…

Vivaのボランティア

- ・ 子どもたちにとって「ちょこっとオトナな」学生が中心
高校生や大学生が子どもたちのことを想って考える
- ・ 活動を裏で支えるオトナボランティア
おやつボランティアや宣伝ボランティアなど



Vivaのこころざし

子どもたちが未来を選択できるベースをつくる

自分の未来は自分で選んでいくもの。環境や状況で諦めてしまったり、誰かに決められるものではなく、子どもたちが自分の未来を自分で選べるためのとりくみ

Vivaのキーワード

【宿題】と【コミュニケーション】

「学び」と「コミュニケーション」は未来の選択をひろげていくために大切な要素
たとえば、宿題がわからず誰にも聞けなかったら「学ぶ」ことがだんだん苦手に…
また、同世代のお友だちや他世代のオトナと関わることでコミュニケーション力が
ついたり、いろんな人を知れることが子どもたちの力になる

Viva～虹色のシャボン玉～に込めた学生の想い

Viva：あそびば、まなびば、喜び(イタリア語)
虹色：いろんな子どもたち
シャボン玉：未来に飛んでいく



Vivaのこともっと知りたい、見たい、協力したい方！！いつでもご連絡下さい。

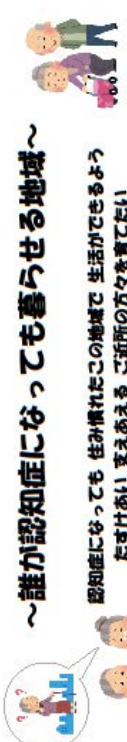
電話：06-6488-5443 メール：s-fujii@amasyakyo.jp 担当：藤井



(指標4) 専門員による地域等の活動の把握が進んでいるか

(小田地区)	みんなでささえ隊講座の開催 (認知症の方を地域でささえるボランティア養成講座)	
関わりの視点	小田地区協議体コアメンバーによる話合いから地域課題として「認知症」を取り上げ、認知症になっても暮らしていける地域づくりのため認知症の方をささえる「みんなでささえ隊」の講座を企画実施した。	
関わりの内容	<ul style="list-style-type: none"> ○講座の企画実施 ○地域でのボランティアとして認知症についての学習と対象者・家族に寄り添う意識の共有 ○講座終了後の情報交換や関係性継続のためのお茶会(交流会)の実施 ○施設ボランティアとしてのコーディネート 	
連携した社会資源	地域包括支援センター・民生児童委員・高齢者福祉施設・ボランティア など	
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	<ul style="list-style-type: none"> ○自発的に応募した講座受講者を対象に、既存の地域組織に縛られない新たな担い手の発見と育成が行われた。 ○講座募集チラシが「地域で暮らす認知症の方の困りごと」の発見につながる。 ○地域の当事者家族が研修に登壇することで、身近に起こる問題という理解を得られた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者が主体的にボランティアグループになるように支援が必要。 ○長期的な取り組みを目指し、継続した講座開催が必要。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民は認知症問題に関心を持っている。 ○参加者の多くが介護経験者や現介護者であり、当事者会的な側面があるとわかった。 ○講座参加者が、地域で実際に出会った認知症の方に対し、講座で受講した方法を実践して支援することが出来た。 ○講座参加者が、講座終了後も実習先の認知症対応施設にボランティアとして関わりを持っている。 ○交流会の聞き取りで、参加者が個人または小グループで活動する機会を要望されていることがわかったため、交流会で募集をかけるなど、自発的な活動につながるよう働きかけたい。

『みんなでささえ隊』講座



～誰か認知症になっても暮らせる地域～

認知症になっても 住み慣れたこの地域で 生活ができるよう
たすけあい 考えあえる ご近所の方々を育てたい

そんな思いから始まった講座です

全5回講座

時間：午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会場：小田支所にて

住所：尼崎市長洲中通 1 丁目 6 番 10 号
※ 第 4 回のみ指定施設になります

定員：10名 **参加費無料**

主催：小田地区協議体

小田地区協議体とは？

小田地区の10年・20年後の地域づくりについて話し合う 専門
隊等による協議体です。
〔参加団体〕

小田北地域包括支援センター
小田南地域包括支援センター
尼崎市社会福祉協議会小田支部

講座内容

日付	主な内容
初回 10月12日(水)	認知症に対する基礎知識(認知症サポーター養成講座)
第2回 10月19日(水)	認知症の方との かかわり方 や 気づきのポイント
第3回 11月 2日(水)	介護者家族の方にお話をうかがう(インタビュ)
第4回 11月16日(水)	認知症の方との かかわり体験 (市内施設 にて) ※施設との調整で日時を決定します。
最終回 11月30日(水)	今、私たちにできること

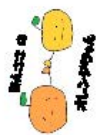
申し込み方法

電話 **06-6488-5443**にて受付

受付時間：平日 午前9時 から 午後5時 まで

問い合わせ先：尼崎市社会福祉協議会 小田支部 担当：林

10月11日(火)締切 ※5回講座を続けて受講出来る方優先



『みんなでささえ隊』

お茶会のご案内



講座の受講者で交流しませんか？

～誰か認知症になっても暮らせる地域～

○講座の受講者や気になる人を誘えるお茶会です

○認知症になっても 住み慣れたこの地域で生活できる
ように一緒に話ししましょう



日 時：平成 29 年

2月15日(水)

午後 1 時 30 分～3 時まで

会 場：小田支所 西会議室

住所：尼崎市長洲中通 1 丁目 6 番 10 号

主 催：みんなでささえ隊 有志

参加費：100円 (お茶菓子代)



申し込み方法

電話 **06-6488-5443**にて受付

受付時間：平日 午前9時 から 午後5時 まで

2月13日(月)締切

問い合わせ先：尼崎市社会福祉協議会 小田支部 担当：林

(指標5) 個別課題を解決するためのネットワークの構築が進んでいるか

(園田地区)		そのっこタやけ食堂の取り組みについて
関わりの視点		<p>園田地区子育て支援連絡会(以下、「連絡会」)で「そのっこタやけ食堂(以下、「食堂」)」を実施するにあたり、以下のことを共通認識として取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食堂の実施にあたっては、貧困対策としての「子ども食堂」とは違い、「子どもが一人でも来られる地域の居場所」であること、地域住民同士のつながりの場となること。(貧困というレッテル貼りにならないように) ○ 「食」はみんなが集まるきっかけとなるひとつのツールであり、目的ではない。地域の大人たちと子どもたちがつながれる場としていくこと。(子どもたちが困った時に気軽に相談ができ、頼れる大人たちが自分たちの地域にいることを知ってもらう) ○ 課題を持った子どもたちや親子がいる時には、学校や保護者とも情報を共有しながら子ども食堂につなげる。その情報は個人情報の取り扱いに充分注意をしながら、連絡会で共有する。 ○ 食堂では子どもたちの様子に十分に注意を払い、気になる子どもがいればPTAや学校と連携しながら、専門員が中心となり支援する。
関わりの内容		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て支援連絡会のメンバーで実施する「そのっこタやけ食堂」の運営及び協力 ○ 子育て支援連絡会のメンバーである各団体が主体となって実施している「みんなでお昼ごはん会」への協力 ○ 園田地区子育て支援連絡会の事務局を子ども政策課と連携して担い、情報の共有や発信を行っている。 ○ 園田支部事業として、運営と資金支援を行っている。
連携した社会資源		連協、単組、老人クラブ、小学校PTA、小学校、中学校、子どもクラブ、民生児童委員、主任児童委員、企業、高齢者福祉施設、NPO法人、行政、コープこうべ
関わり後の地域の活動状況等	地域における変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どもたちのために、何か自分もできることをしたい。」と思う大人たちが増え、食材寄付や調理ボランティア等直接的な支援の他に、日ごろから地域の子どもたちを見守る大人たちが増えている。 ○ 気になる子どもや子育て中の親たちの相談が、地域住民や専門機関から社協に入るようになった。 ○ あるクラスの金曜日の「終わりの会」で食堂が話題になることがあり、子どもたちにも「食堂は自分たちの居場所」との意識がめばえ始めている。
	課題	○ それぞれの団体のやり方や特性の違いがあるが、それを尊重しながら、毎回の運営を当番制で取り組むため、かかわる職員やスタッフ、ボランティアとの共通認識や情報共有のあり方が課題である。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが地域住民や団体に対し、何かあれば「助けて！」と言える場所ができた。 ○ 地域住民と一緒に連絡会メンバーで共通の場を運営していることによ

	<p>り、定期的に情報を共有できる場となっている。</p> <p>○日ごろからの連携により、急な個別ケース事例にも役割分担をしながら、即座に対応することができる。</p> <p>○視察受け入れや「そのっこ夕やけ食堂」の説明を様々な機会に行うことで、市内外で取組みの必要性を伝えることができている。</p> <p>○課題や今までの取り組み方法を紹介することで、実施を検討している活動者の後押しとなり、子ども食堂の開設が増えてきている。</p>
--	--



はじまり ました!

地域の子もたちが集まり、一緒に宿題したり、ごはんを食べたりできる場所として「そのっこ夕やけ食堂」をオープンします!

実施日時: 毎週金曜日 午後4時～午後7時


実施場所: 喫茶セビア (瓦宮1丁目5-13)

対象: 園田地区の児童や学生など (親子での参加もOK) 20名

内容: みんなで集まって、一緒に宿題したり、ゲームしたり、ごはんを食べます。

費用: 中学生まではお手伝いで無料
高校生以上(大人)は300円

※ 夕食は、ボランティアと一緒に作ります。
※ アレルギーがある方は、お申し出ください。



～お問い合わせは～
電話 06(6491)2361
(園田支所内 社協園田支部)
住所: 尼崎市御園1丁目23番8号 園田支所2階
主催: 園田地区子育て支援連絡会・
尼崎市社会福祉協議会 園田支部

